

れいわ ねん どうしよよさん あん きしゃかいけん
令和6年度当初予算(案) 記者会見

にちじ れいわ ねん がつ にち か
日時:令和6年2月13日(火)11:00～

ばしよ しゃくしよほんちよう かい かいぎしつ
場所:市役所本庁3階 会議室

ほんじつ れいわ ねん どうしよよさん おも じゆうてんじぎよう
本日は、令和6年度当初予算の主な重点事業について、ご
せつめい
説明させていただきます。

てもと はいふ よこ ず れいわ
お手元に配布させていただいた A4 横・カラー刷りの「令和
ねん どうしよよさん じゆうてんじぎよう か しりよう もち せつめい
6年度当初予算 重点事業」と書かれた資料を用いてご説明い
たします。

よさん き ぼ ひょうし した きさい
予算規模につきましては、表紙のタイトル下に記載のあります
とおおり、282 億おくえん円となっており、これは過去3番目に大きな予算
き ぼ
規模となります。

しりよう ひら
それでは、資料をおめくりいただき、1ページをお開きくださ
い。

で あ けっこん しんせいかつ にんしん しゅっさん こそだ じゆうたくしゅとく
出会いから結婚、新生活、妊娠、出産、子育て、住宅取得の
かく こそだ せだい きょうりよく しえん こそだ
各ライフステージの子育て世代を強力に支援することで、子育て

て世帯の定住促進に繋げようとする「なると まるごと 子育て
応援パッケージ」は、3年目となる令和6年度も、国・県の動向も
踏まえながら、新たな取組を加えるなど、内容を進化させていま
す。

まず、これまで以上に「出会い」に重点を置き、新たに2つの
事業を追加するとともに、「妊娠前」から健康面をサポートする
新たな支援策も盛り込みました。

さらに「就学前」についても充実を図るため、2つの新規事業
の実施に加え、保育料の無償化については、対象年齢等の拡充
を行うことといたしました。

こうしたことから、予算総額については、前年度当初予算か
ら、約2,500万円増の、3億5,025万8千円とし、鳴門市として
これまでにない規模で子育て支援事業を推進することで、子育て
世代の定住人口の確保を図ります。

これより、本事業の令和6年度新規事業及び拡充内容につい
てご説明いたします。

はじめに、就学前しゅうがくまえのステージの「保育料無償化事業ほいくりょうむしょうかじぎょう」についてであります。

本事業ほんじぎょうについては、令和7年度れいわねんどまでに0歳児さいじまで拡充かくじゅうすることとしておりましたが、保育施設ほいくしせつを利用する子育て家庭りょうこそだかていの経済的負担軽減けいぎいてきふたんけいげんのため、令和6年度れいわねんどに前倒し実施まえだおじっしします。

対象たいしょうは、認可保育施設にんかほいくしせつおよび市内およしなの認可外保育施設にんかがいほいくしせつを利用する児童じどうとなります。

次に、「乳幼児ねんねケア事業じぎょう」についてであります。

日本にほんにおいて睡眠時間すいみんじかんの短さみじかが課題かだいとなっており、特に乳幼児にゅうようじの睡眠不足すいみんぶそくが、発達はったつやメンタルヘルスの問題もんだいにつながる可能性かのうせいが示しめされています。

こうした課題かだいを解決かいけつするための一助いちじょとして、専門家せんもんかの知見ちけんやAIかつようを活用すいみんかいぜんして睡眠改善うのアドバイスが受けられるアプリを、希望きぼうするご家庭かていに提供ていきょうすることにより、育児いくじストレスの軽減けいげんや乳幼児にゅうようじのすこやかな成長促進せいちょうそくしんに寄与きよしたいと考えています。

対象たいしょうは、1歳6ヶ月さいげつから3歳12ヶ月さいげつの乳幼児にゅうようじを養育よういくされているご家庭かていです。

つぎ にんしんまえ じぎょう ようさんせつしゅ じぎょう
次に、妊娠前の事業、「葉酸摂取サポート事業」であります。

すこ あか たんじょう おうえん にんしん きぼう かた
健やかな赤ちゃんの誕生を応援するため、妊娠を希望する方

たいしょう しょくせいかつ えいようそうだん おこな ようさん
を対象に、食生活チェックや栄養相談を行うとともに、「葉酸サ

プリメント」を配布します。葉酸は、赤ちゃんの神経管閉鎖障害

よぼう ほか にんしんちゅう ひんけつ よぼうこうか
の予防の他に、妊娠中の貧血などの予防効果があります。

ふだん しょくじ ふそく ようさん にんしんまえ
普段の食事だけでは不足しがちとなる葉酸を妊娠前から

にんしんしょき せつきよくてき せつしゅ し かんり
妊娠初期にかけて、積極的に摂取していただくため、市の管理

えいようし えいようそうだん じっし かつよう
栄養士による栄養相談を実施するとともにサプリメントの活用

などをサポートします。

つぎ で あ かん じぎょう ちいきぜんたい けっこん おうえん
次に、「出会い」に関する事業として、地域全体で結婚を応援

きうんじょうせい もくてき あら じぎょう てんかい
する機運醸成などを目的として、新たな2事業を展開します。

けっこんおうえん じぎょう みこんか ぼんこんか
「結婚応援シンポジウム事業」では、未婚化・晩婚化がもたら

みらい げんざい こんかつじぎょう かいさい
す未来や現在の婚活事業をテーマとしたシンポジウムを開催

れいわじだい こんかつじぎょう りかい ふか
し、令和時代の婚活事情についての理解を深めるとともに、

ちいき けっこんしえん あらた かんが きかい せってい
地域でできる結婚支援について改めて考える機会を設定しま

す。

「結婚支援アイデアコンテスト事業」では、結婚支援に資するアイデアを募集し、ご応募いただいたアイデアの一部については、市において事業化を検討します。

次に中学生・高校生のステージの事業についてであります。

まず、「インフルエンザ予防接種費助成事業」についてです

が、令和5年度に物価高騰対策支援事業として実施した、中学

3年生、高校3年生相当の方を対象とした、インフルエンザ予防

接種費用事業について、令和6年度は、「なると まるごと 子育て

て応援パッケージ」事業として実施します。子育て世代の経済的

負担を軽減するとともに、インフルエンザの重症化を予防し、

安心して受験を迎えることができるようにすることを目的に、1

人1回、接種費用を市が負担します。

次に、パッケージ以外の子育て支援についてであります。

まず「子どもはぐくみ医療費助成制度」についてであります。

ほんせいど けん じゅん へいせい ねんど さい
本制度については、県に準じて、平成29年度より、3歳から
さい つういんおよ さい さい にゅういん げつ
15歳までの通院及び6歳から 15歳までの入院について、1カ月
いりょうきかん じ こふたん えん じっし
1医療機関ごとに自己負担600円として実施してきました。

こうこうせいそうとう こ よういく かにい しえん
また、高校生相当の子どもを養育されているご家庭への支援
れいわ ねんど こそだ おうえん じぎょう
については、令和4年度から、子育て応援パッケージ事業に
いちづ さい にゅういん ひょう じよせい おこな
位置付け、18歳までの入院にかかる費用について助成を行う
こうこうせいなどいりょうひじよせい こうこうせいそうとう こ ひと
「高校生等医療費助成」や、高校生相当の子どもに1人あたり
まいとし まんえん きゅうふ こそだ おうえんてあて しどくじ
毎年3万円を給付する「子育て応援手当」といった、市独自の
とりくみ おこな
取組を行ってまいりました。

れいわ ねんど けん じよせいたいしやう かくじゅう ふ こ
令和6年度からは、県の助成対象の拡充を踏まえ、「子どもは
いりょうひじよせいせいど たいしやうねんれい かくじゅう おこな
ぐくみ医療費助成制度」として対象年齢の拡充などを行うことと
さい さい たいしやうねんれい さい かくじゅう
しており、15歳までとしていた対象年齢を 18歳までに拡充する
にゅういん じ こふたん えん むりやう
とともに、入院については、自己負担600円を無料といたしま
す。

ほんせいど たいしやうねんれい かくじゅうおよ くに れいわ ねん がつぶん
なお、本制度の対象年齢の拡充及び国が令和6年10 月分
じどうてあて たいしやうねんれい かくじゅう ほうしん しめ ふ
から児童手当の対象年齢を拡充する方針を示していることを踏
こそだ おうえんてあて れいわ ねん がつぶん しきゅう つづ
まえ、「子育て応援手当」は、令和6年9月分まで支給を続ける
よてい
予定としております。

つづ 続きまして、ここからは「なると うずっ子 学力向上パッケージ事業」について、ご説明いたします。

「なると うずっ子 学力向上パッケージ事業」は、就学前から中学校卒業(高校入学)まで、鳴門市独自の特色ある教育を実施し、子どもたち一人一人の無限の可能性を伸ばすことを目的に、令和5年度からスタートいたしました。

令和6年度は、モデル校にて実施した2事業について、効果検証を踏まえ、全校実施に拡充するほか、理数と英語に特化した新たな2つの事業を開始するなど、事業の拡充を図り、未来を生きる子どもたちの確かな学力向上の取組みを推進します。

これより、本事業の事業内容について説明いたします。

まず、「鳴門理数塾開講事業」についてです。

市内の中学生を対象に、鳴門理数塾を開講します。鳴門教育大学の教員や大学院生による理数分野の講座を月1回程度行い、理系人材の育成に努めます。講座は理数科目が得意な生徒向けの講座と、苦手な生徒向けの講座を開き、それぞれより理数系の理解が深まるポイントを講義することで、理数学習へ

のモチベーションを高め、苦手な生徒はその克服を、得意な
生徒はその能力をさらに伸ばすことを目指します。

次に、「国内留学体験事業」についてです。

市内中学生を対象に、国内にしながら海外留学の疑似体験
ができる施設での宿泊研修を行います。滞在中のコミュニケーション
やカリキュラムを全て英語で行うこととなり、英語力のさらなる
向上が期待されます。集中的に英語を学ぶ事ができる
機会を創出し、異文化体験・国際理解の経験を通じて英語の
活用力を身に付けたグローバル人材の育成を行います。

次に、「AIドリル導入事業」についてです。

令和5年度よりモデル校の小中学校に対し、ドリル学習の
解答内容から、AIが間違いの原因などを解析し、誤答の原因と
推定される単元に誘導するなど、児童生徒にとって最適な出題
をすることで、一人一人の学習を助ける最先端の「AIドリル」を
導入しました。

モデル校において効果検証を行った結果、学力向上に対して
の効果が見られましたので、令和6年度からは全校実施とし、

じどうせいとひとりひとり こべつさいてき まな じゅうじつ はか がくりよく
児童生徒一人一人の個別最適な学びの充実を図り、学力の
こうじょう すいしん
向上を推進します。

つぎ えいかいわどうにゆうじぎょう れいわ
次に、「オンライン英会話導入事業」についてです。令和5
ねんど えいご はな ちから しゅうとく もくてき こう
年度から「英語を話す力」を習得することを目的に、モデル校と
さだ ちゅうがっこう ねんせい たいしょう じょう がいこくじん
して定めた中学校の2年生を対象に、オンライン上で外国人
こうし たい えいかいわがくしゅう おこな えいかいわどうにゆうじぎょう
講師と1対1で英会話学習を行う「オンライン英会話導入事業」
じっし
を実施しました。

こう せいと きょういん たいへんこうひょう ほんし はけん
モデル校の生徒や教員からは大変好評であり、本市より派遣
せっきよくてき はなし がくしゅういよく
されているALTに積極的に話かけるようになるなど、学習意欲
こうじょう のうりよく こうじょう み
の向上・コミュニケーション能力の向上が見られたことから、
れいわ ねんど ぜんこうじっし
令和6年度より全校実施とします。

つぎ えいけんじゅけんりょうぜんがくほ じょじぎょう
次に、「英検受験料全額補助事業」についてです。
れいわ ねんど えいけんじゅけんりょう ぜんがくほ じょじぎょう かいし
令和5年度より、英検受験料の全額補助事業を開始するとと
ちゅうがく ねんせい げんそくぜんいんじゅけん ちゅうがくそつぎょう じ えいけん
もに、中学3年生は原則全員受験とし、中学卒業時まで英検
きゅう しゅうとく め ぎ れいわ ねんど じゅけんしゃすう ごうかくしゃ
3級の取得を目指しています。令和5年度は受験者数・合格者
すう どうしよ そうてい うわまわ せいか
数とも当初の想定を上回るなど、成果をあげています。

さらに、令和6年度からは、補助対象者をこれまでの「市内の
中学校に通う生徒」から「鳴門市に住民票がある中学生又はそ
の年齢に準ずる者」へ拡充いたします。

県立中学校や私立中学校、特別支援学校やフリースクール
の在籍生など、市内全ての中学生やその年齢に準ずる子どもた
ちの英語力向上に努めます。

続きまして、ここからは「豊かな人を育むまちづくり」に資する
事業について、ご説明させていただきます。

まずは、「鳴門市・リューネブルク市姉妹都市盟約締結50
周年記念事業」についてであります。

本市とドイツ・リューネブルク市は、1974年に姉妹都市盟約
を締結し、今年で50周年を迎えます。8月には、鳴門市からは
5年ぶりとなる、第24回鳴門市姉妹都市親善使節団がリューネ
ブルク市を訪問し、一般使節団とともに青少年使節団も派遣
し、異文化交流や国際理解を深め、次世代の国際交流を担う
人材育成を目指します。

なお、リューネブルク市訪問時には、50周年の記念確認書への署名などを行う記念式典などが開催される予定です。

また、本市においても、この節目の年を市民の皆様と共に祝い、姉妹都市交流の機運を高めるため、「姉妹都市盟約50周年記念事業」を実施いたします。

ロゴマークや交流記念誌などの記念制作をはじめ、これまでの交流活動を紹介する企画展を開催するほか、市内で開催されるさまざまなイベント等において、関係団体の皆様とともに50周年を盛り上げたいと考えています。

さらに、ドイツ館は平成6年6月に開館し、今年で30周年を迎えますことから、50周年記念イベントと合わせ、市民の方々や関係機関と連携して、地域の活性化や多文化共生社会の形成につながるような取組みをすすめてまいります。

次に、「文化会館改修事業」についてであります。

文化会館は耐震性能を満たしておらず、地震による倒壊の可能性のあることから令和3年4月より休館しております。

今年度、基本設計業務を委託し、耐震性能の不足や現施設が抱える課題を解消するとともに、増田友也氏の「方格性」という

いしよう　　そんちよう　　たいしんかいしゅう　　む　　せっけい　　おこな
意匠コンセプトを尊重した、耐震改修に向けた設計を行って
います。

りようしゃ　　してん　　た　　さまざま　　くふう　　きのう　　こうじょう　　せだい
また、利用者の視点に立った様々な工夫や機能の向上、世代
ぶんか　　こ　　こうりゅう　　そくしん　　ぼ　　さいせい　　めぎ
や文化を超えた交流が促進される場としての再生を目指し、
きょうとだいがく　　とも　　けんとう　　すす
京都大学などと共に検討を進めているところです。

こんご　　れいわ　　ねんど　　じっしせっけい　　せこう
今後のスケジュールですが、令和6年度より実施設計・施工
いっかつはっちゅう　　じっしせっけい　　かいし　　れいわ　　ねんど　　こうじ
一括発注による実施設計を開始し、令和7～8年度での工事を
へ　　れいわ　　ねんどまつ　　しゅんこうしきてん　　じっし
経て、令和8年度末にプレオープンや竣工式典などを実施する
よてい　　ご　　かいかんじゅんび　　おこな　　れいわ　　ねん　　がつ
予定です。その後、開館準備を行い、令和9年6月のグランドオ
めぎ
ープンを目指します。

つぎ　　きょういく　　ほいくげんば　　こうちくじぎょう
次に、「教育・保育現場サポートチーム構築事業」についてで
あります。

げんざい　　がっこうげんば　　ほいく　　げんば　　もんだい　　ふくぎつたようか
現在、学校現場や保育の現場は問題が複雑多様化しており、
げんば　　たいおう　　むずか
現場のみでは対応が難しくなっています。こうしたことから、
れいわ　　ねんど　　べんごし　　きょういん
令和6年度から弁護士や教員OB、スクールソーシャルワーカー
とう　　きょういく　　ほいくげんば　　せっち　　げんば
等からなる教育・保育現場サポートチームを設置し、現場で
はっせい　　さまざま　　かだい　　おう　　せんもんてき　　じょげんとう　　もと　　もんだい
発生する様々な課題に応じた専門的な助言等に基づき、問題

とう てきせつ たいおう かんきょう とどの きょういく ほいくげんば
等に適切に対応できる環境を整えるとともに、教育・保育現場
ふたんけいげん つと
の負担軽減に努めてまいります。

つづ じぞくはってんかのう し じぎょう
続きまして、「持続発展可能なまちづくり」に資する事業につ
いて、ご説明させていただきます。

なるとし きたじまちょうきょうどうじょうすいじょうせい びじぎょう
まずは、「鳴門市・北島町共同浄水場整備事業」についてであ
ります。

すいどうしせつ こんかん じょうすいじょう ろうきゅうか すす たいしんせいのお
水道施設の根幹である浄水場は、老朽化が進み、耐震性能
かだい きたじまちょう きょうどう じょうすいじょう せいび
などに課題があるため、北島町と共同で浄水場を整備すること
としました。

けんせつこうじ やく おくえん けいやく れいわ ねん がつ きょうようかいし
建設工事は約115億円で契約し、令和8年4月の供用開始に
む じぎょう すす げんざい おも こうぞうぶつ き そ こうじ かんりょう
向け事業を進めており、現在は、主な構造物の基礎工事が完了
くたいこうじ おこな
し、躯体工事を行っているところです。

れいわ ねんど おも こうじ じょうすいしよりとう くたいこうじ
令和6年度の主な工事は、浄水処理棟などの躯体工事や
きかい でんきせつびこうじ よてい こんかい ぶっか
機械・電気設備工事などを予定しています。なお、今回は、物価
じょうしょうとう ともな さいむふたんこういげんどがく おくえんついか
上昇等に伴う債務負担行為限度額を12億円追加します。

つき ちきゅうおんだんかたいさくじっこうけいかくすいしんじぎょう
次に、「地球温暖化対策実行計画推進事業」についてであり

ます。

ちきゅうおんだんかたいさくすいしんほう もと ち ほうこうきょうだんたいじっこうけいかく
地球温暖化対策推進法に基づく地方公共団体実行計画・

くいきしさくへん あら さくてい さいせいかのう どうにゅう
区域施策編を新たに策定して、再生可能エネルギーの導入

もくひょう ほんし しょうらい おんしつこうか はいしゅつりょう さくげん
目標や本市の将来ビジョン、温室効果ガスの排出量を削減す

ぐたいてき しさく さだ かんみんいつたい
るための具体的な施策などについて定め、官民一体となって

ねんど おんしつこうか ねんどひ さくげん
2030年度における温室効果ガスの2013年度比46%削減や

とし む と く すいしん
2050年カーボンニュートラルに向けた取り組みを推進します。

ち ほうこうきょうだんたいじっこうけいかく くいきしさくへん さくてい あわ
また、地方公共団体実行計画・区域施策編の策定に併せて、

なるとしかんきょうきほんけいかく ち ほうこうきょうだんたいじっこうけいかく じ む じぎょうへん
鳴門市環境基本計画と、地方公共団体実行計画・事務事業編

だい つぎなる としちきゅうおんだんかたいさくじっこうけいかく ひとついてき
である第5次鳴門市地球温暖化対策実行計画を一体的に

みなお
見直します。

つづ あんぜんあんしん し じぎょう
続きまして、「安全安心のまちづくり」に資する事業について、

せつめい
ご説明させていただきます。

がんじつ はっせい の とほんとうじしん きんねん
元日に発生した「能登半島地震」をはじめとして、近年、

だいきぼさいがい たはつ じょうきょう
大規模災害が多発している状況にあります。

なんかい じしん こんご としいない
また、「南海トラフ地震」は、今後30年以内に70～80%の

かくりつ はっせい い かこ とう ねん
確率で発生すると言われ、過去のデータ等から2035年の±5

ねん ねん あいだ はっせい かくりつ たか
年、すなわち 2030～2040 年の間に発生する確率が高いと
い ほんし とし ひと めやす
も言われていることから、本市では 2030 年を一つの目安とし
じしん つなみ たいさく きょうか
て、地震・津波への対策を強化してまいります。

しんちょうしゃかいちようしきなどかいさいじぎょう
まずは、「新庁舎開庁式等開催事業」についてであります。

ほんし あら ぼうさいきよてん せいび しんちょうしゃ
本市の新たな防災拠点として整備をしてきた新庁舎において
れいわ ねん がつ かいちよう むか かいちようしきなら しみん
は、令和6年5月の開庁を迎えるにあたり、開庁式並びに市民の
みなさま ひろめ きかい かいちようきねん がつ
皆様へのお披露目の機会として、開庁記念イベントを 4月20
にちどようび かいさい
日土曜日に開催します。

ごぜん かいちようしき きょこう ごご かいちようきねん おこな
午前が開庁式を挙行し、午後から開庁記念イベントを行いま
す。

ぼしよ しんちょうしゃない しんちょうしゃまえ あら せいび
場所は、新庁舎内と新庁舎前に新たに整備された「うずしお
ひろば よてい かいちようきねん だいく がっしょう
広場」などを予定しており、開庁記念イベントでは、第九の合唱
あ わおど ないらんかい しみん みなさま
や阿波踊りなどのステージイベントや内覧会など市民の皆様も
さんかかのう さまざま もよお よてい
参加可能な、様々な催しを予定しています。

つぎ かしょう おおさちようそうごうぼうさい せいびじぎょう
次に、「(仮称)大麻町総合防災センター整備事業」について
であります。

ほんしせいぶ いち おおあさぶんしよ ぼんどうれんらくじよ けんせつ
本市西部に位置する大麻分署や板東連絡所などは、建設か
はんせいきいじょう けいか たいしんせい ふそく くわ しせつ せつび
ら半世紀以上が経過し、耐震性の不足に加え、施設・設備の

ろうきゆうか すす た か む けんとう すす
老朽化が進んでいることから、建て替えに向け検討を進めてま
いりました。

こんねんど ちいき みなさま いけん さくてい
今年度、地域の皆様からご意見をいただきながら策定しまし
た、

かしょう おおさちようそうごうぼうさい きほんけいかく もと れいわ
「(仮称)大麻町総合防災センター基本計画」に基づき、令和7
ねんど ちゃっこう む きほんせつけいぎようむ ちやくしゆ おおあさぶんしよ
年度の着工に向け、基本設計業務に着手いたします。大麻分署
などの消防・防災機能に加え、行政サービスを提供するだけで
なく、「フェーズフリー」の概念を取り入れ、日常時から地域住民
とう した さまざま ひと こうりゆう ひじょうじ
等に親しまれ、様々な人が交流することができ、非常時にも
しみん いのち せいかつ しつ まも やくだ しせつ ちいき
市民の命や生活の質を守ることに役立つ施設となるよう、地域
みなさま いけん うかが すす
の皆様のご意見を伺いながら、進めてまいります。

つぎ がっこうほうそうせつび ぼうさいぎようせいむせんこべつじゅしんきれんどうじぎよう
次に、「学校放送設備と防災行政無線戸別受信機連動事業」
についてであります。

きんきゆうじしんそくほう ひなんじょうほう さいがいじ きんきゆうじょうほうとう はっしん
緊急地震速報や避難情報などの災害時の緊急情報等を発信
するツールのひとつとして、市内の就学前教育・保育施設、小・
ちゅうがっこう こうちょうしつ しょくいんしつ ぼうさいぎようせいむせんたんまつ こべつ
中学校の校長室や職員室に、防災行政無線端末の戸別
じゅしんき せっち
受信機を設置しています。

げんざい こべつじゅしんき そうしん きんきゅう
現在は、この戸別受信機でJアラートから送信された緊急
じしんそくほう じゅしん きょういんとう ないよう こうないほうそう
地震速報などを受信すると、教員等がその内容を校内放送で
ほうそう じどう せいとどう さいがいじ きんきゅうじょうほうとう でんたつ
放送することで、児童・生徒等に災害時の緊急情報等を伝達し
ていますが、タイムラグが生じている状況にあります。

こべつじゅしんき こうないほうそうせつび れんどう
そのため、戸別受信機と校内放送設備をリアルタイムで連動
じんそく じょうほうでんたつ し く せいび
させ、迅速な情報伝達ができる仕組みを整備します。

つぎ ちゅうがっこうおくないうんどうじょうくちようせつびせいびじぎょう
次に「中学校屋内運動場空調設備整備事業」についてであり
ます。

さいがいじ ひなんじょ おお ひなんしゃ う い
災害時に避難所としても、多くの避難者を受け入れることとな
ちゅうがっこう おくないうんどうじょう さいがい つよ い
る中学校の屋内運動場に、災害に強いと言われているガスヒー
しき くちようせつび けいかくてき どうにゆう れいわ
トポンプ式の空調設備を計画的に導入していきます。令和6
ねん だいいちちゅうがっこうおくないうんどうじょう せっち こうじ おおあさちゅうがっこう
年度は、第一中学校屋内運動場への設置工事や、大麻中学校
おくないうんどうじょう せっち む こうじせつけい すす ひなんじょ きのお
屋内運動場への設置に向けた工事設計を進め、避難所の機能
きょうか じゅうじつなら きょういくかんきょう じゅうじつ はか
強化・充実並びに教育環境の充実を図ります。

つぎ ぼうさいくんれんとう じゅうじつ
次に、「防災訓練等の充実」についてであります。
ぜんしよくいん てきかく えんかつ さいがいたいおうぎょうむ じっし
全職員が的確かつ円滑に災害対応業務を実施できるよう
けいかくてき じっせんてき くんれんとう じっし ぐたいてき ひさいち
計画的かつ実践的な訓練等を実施します。具体的には、被災地

かつどうけいけん ほうふ だんたいとう こうしはけん う ひさいち
での活動経験が豊富な団体等から講師派遣を受け、被災地の
げんじょう かだい まな さいがいたいさくほん ぶずじょうくんれん きゅうえんぶつし
現状と課題を学びながら、災害対策本部図上訓練や救援物資
ちょうたつ ゆ そうちょうせいくんれん じっし
調達・輸送調整訓練などを実施します。

だい き ぼさいがいじ さいがいたいおう ししょくいん
また、大規模災害時には、災害対応にあたる市職員のマンパ
ぶそく そうてい じっせんてき じゅうみんしゅたい
ワー不足も想定されることから、より実践的に住民主体の
ひなんじょかいせつ うんえいくんれん じっし ぎょうせい じゅうみん いったい
避難所開設・運営訓練を実施することで、行政と住民が一体と
ち いきぼうさいりよく こうじょう はか
なって地域防災力の向上を図ります。

つぎ ぼうさいかんれん じぎょう れいわ ねんど がつほせいよさん
次に、ここで防災関連の事業として、令和5年度3月補正予算
けいじょう き き かんりたいさくききん そうせつ
に計上する「危機管理対策基金の創設」についても
せつめい
ご説明させていただきます。

ほんし なんかい じしん ちゅうおうこうぞうせんかつだんそう
本市では、「南海トラフ地震」や、中央構造線活断層における
ちよつかがたじしん たいさく きゅうむ
直下型地震への対策が急務となっています。

こんご しんがた かんせんしやう み
また、今後においても、新型コロナウイルス感染症に見られる
しゃかいけいぎせいいかつ おおはば へんよう かんせんしやう きんねん
ように、社会経済生活に大幅な変容をもたらす感染症や、近年
きこうへんどう ともな げきじん か ひんぱつ か しぜんさいがい たいさく
の気候変動に伴う激甚化、頻発化する自然災害への対策を
すいしん ひつよう
推進していく必要があります。

の とほんとうじしん けいき さまざま き き じしやう
そこで、能登半島地震を契機とし、こうした様々な危機事象に
たい てきせつ たいおう ざいげん かくほ そうごうてき き き
対して、適切に対応できる財源を確保するため、総合的な危機
かんりたいさく かのう き き かんりたいさくききん そうせつ
管理対策を可能とする「危機管理対策基金」を創設します。

つづ だれ けんこう く
続きまして、「誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり」に
し じぎょう せつめい
資する事業について、ご説明させていただきます。

よぼう どうきづ そくしんじぎょう
まずは、「フレイル予防動機付け促進事業」についてでありま
す。

ほんし れいわ ねんど うんどう えいよう しゃかいさんか
本市においては、令和3年度より、「運動・栄養・社会参加」を
はしら よぼう すいしんじぎょう てんかい
3つの柱とする、フレイル予防推進事業を展開しております。そ
のチェックツールとして、きんにくりょう そくてい ていせいぶんぶんせき
筋肉量などを測定する体成分分析
そうち かつよう あら やさいせつしゅりょう すいてい き き
装置を活用しておりますが、新たに、野菜摂取量の推定機器「ベ
ジチェック」やのうたいりよく そくてい き き けんない はじ
脳体力の測定機器「コグエボ」を、県内で初めて
どうにゅう
導入します。

しみん む そくていかい けん かさいだい き ぼ かいさい
いきいきサロンや市民向けの測定会、県下最大規模で開催し
なるとし けんこう かつよう
ている「鳴門市デジタル健康フェスタ」などで活用し、フレイル
よぼう む こうどうへんよう
予防に向けた行動変容につなげてまいります。

つぎ しない かいごよぼうきょうしつかいさいじぎょう
次に「市内まるごと介護予防教室開催事業」についてであり
ます。

かいごよぼうじぎょう すいしん けんないはつ と く あら
介護予防事業の推進にあたり、県内初の取り組みとして、新
しな いじぎょうしゃ たいしょう む かいごよぼうきょうしつ かいさい
たに、市内事業者を対象に、シニア向けの介護予防教室の開催
ぼしゅう かくじぎょうしゃ こせい とくいぶんや い きょうしつ かいさい
を募集し、各事業者の個性や得意分野を活かした教室の開催
そくしん
を促進します。

かいごよぼうじぎょう さんか かた
いきいきサロンなどの介護予防事業へ参加されている方は、
さんか かた くら とし けんこうじゅみょう
参加されていない方に比べて、2.7歳も健康寿命が長くなって
しな いずいしょ げんき きょうしつ かんきょう
おり、市内随所でシニアを元気にする教室があふれる環境づく
すいしん かいごよぼう と く こうれいしゃ ぞうか はか
りを推進し、介護予防に取り組まれる高齢者の増加を図ること
けんこうじゅみょう えんしん め ぎ
により、健康寿命の延伸を目指してまいります。

つぎ ごうりてきはいりよ ていきょうし えん かか じよせいじぎょう
次に「合理的配慮の提供支援に係る助成事業」についてであ
ります。

しょうがいしゃさべつかいしょうほう かいせい れいわ ねん がつ じぎょうしゃ
「障害者差別解消法」の改正により、令和6年4月から事業者
しょう しゃとう ごうりてきはいりよ ていきょう ぎ む か
による障がい者等への合理的配慮の提供が義務化されます。

ともな しょう しゃとう ごうりてきはいりよ ふきゅう はか
これに伴い、障がい者等への合理的配慮の普及を図るため、
みんかんじぎょうしゃ ごうりてきはいりよ ていきょう ようい おこな
民間事業者が合理的配慮の提供を容易に行うことができるよ
ひょう いちぶ じよせい せいど そうせつ
う、その費用の一部を助成する制度を創設します。

ほじょたいしょう なるとしな い じぎょうしょ お いんしょく ぶっばん いりょう
補助対象は、「鳴門市内に事業所を置く飲食、物販、医療など
みんかんじぎょうしゃなど てんぽなど こうじ ぶつびん
の民間事業者等」とし、店舗等のバリアフリー工事や物品の

こうにゆう さくせい ひ どう ごうりてきはいりよ
購入、コミュニケーションツールの作成費等の合理的配慮のため
ひよう たい じよせいきん こうふ
の費用に対し、助成金を交付します。

つづ かつりよく し じぎょう
続きまして、「活力あふれるまちづくり」に資する事業について、
せつめい
ご説明させていただきます。

ゆうちじぎょう
まずは、「スタートアップ誘致事業」についてであります。
ほんし れいわ ねんど いじゅうきぎょう なる と
本市では、令和5 年度より移住起業アカデミー「NARUTO
ぶーと きゃんぷ しがい あら よ
BOOT CAMP」をスタートし、市外から新たなビジネスを呼び
こ ちいきかっせいか と く
込み、地域活性化につなげる取り組みをすすめております。

れいわ ねんど きぎょう なる と
そこで、令和6 年度からは、スタートアップ企業に鳴門をフィールド
ちいきしげん ちいきかだい かつよう じっしょうじっけん と
として、地域資源や地域課題を活用した実証実験に取り
く じぎょうかつどう しえん ちいき
組んでもらうなど、その事業活動を支援し、地域イノベーション
そうしゅつ
の創出につなげてまいります。

としぶ なる と しえん し く
都市部にはない鳴門ならではのスタートアップ支援の仕組み
あつ う め ぎ
づくりにより、スタートアップが集まるまち・生まれるまちを目指
します。

つぎ まんきつ じぎょう
次に、「なると満喫アクティビティ事業」についてであります。

本市では、令和5年度より、市内に点在しているアクティビティを整理・整備し、観光コンテンツとして磨き上げ、地域活性化を図る「なると満喫アクティビティ事業」を実施しています。

本事業は、令和5年度から令和7年度までの3年間を事業期間としており、2年目となる令和6年度は、令和5年度事業で検証した新アクティビティの実施や(仮称)なるとアクティビティフェスをはじめとする様々なアクティビティイベントの実施、新たに構築予定のアクティビティサイトを活用した誘客プロモーションの展開などを予定しています。

本事業を実施することで、新たな来訪者や観光需要の取り込み、滞在の長期化やリピーターの増加等を促進するとともに、「寄りたい!」、「泊まりたい!」、「また行きたい!」と感じていただけのまちづくりを目指します。

次に、「サイクリスト受入環境整備補助金」についてであります。

2027年度完成予定の大鳴門橋自転車道は、国内外から多くの方が訪れるなど、新たな人の流れを生み出す「地方創生の起爆剤」になるものと考えております。

ねんどかんせいよてい おおなるとぼしじてんしゃどう こくないがい おお
2027 年度完成予定の大鳴門橋自転車道は、国内外から多
ひと おとず あら ひと なが う だ ちほうそうせい
くの人が訪れるなど、新たな人の流れを生み出す「地方創生の
きばくざい かんが
起爆剤」になるものと考えております。

ふた あいしゃ あんしん おくない ほかん しせつ しゅくはく
二つめは、「愛車を安心して屋内に保管できる施設で宿泊し
たい」とするサイクリストのニーズを踏まえ、室内用自転車スタ
ふ しつないようじてんしゃ
ンドやラックの購入など、自転車を客室等への持ち込みを可能
こうにゆう じてんしゃ きやくしつどう も こ かのう
とするための整備費用の一部を支援する「サイクリストに優しい
せいびひよう いちぶ しえん やき
宿整備事業」です。
やどせいびじぎょう

と く じっし ほんし たいざいじかん のぶ
こうした取り組みを実施することで、本市での滞在時間の延
しゅくはくりよう そくしん ひ つづ じてんしゃ
長や宿泊利用を促進するとともに、引き続き「自転車フレンドリ
すいしん
ーなまちづくり」を推進してまいります。

さいご つく じりつ し じぎょう
最後に、「みんなで創る自立したまちづくり」に資する事業とし
ちいき きょうか じぎょう せつめい
て、「地域づくり強化イベント事業」について、ご説明いたしま
す。

ほんし じちかい かにゆうばな すす なか じちかいとう
本市において、自治会の加入離れが進む中、自治会等への
かにゆうそくしん はか ひつよう ちいき れんけい
加入促進を図る必要があることから、地域コミュニティの連携
きょうか かつせいか もくてき あら じゅうみんこうりゆう など じっし
強化や活性化を目的とした新たな住民交流イベント等の実施に
たい じよせい おこな
対して助成を行います。

補助対象は、鳴門市自治振興連合会に属する地区自治
振興会が主催するイベントであり、補助額等は、地区自治
振興会や関係者の意見等を踏まえて決定する予定です。

本日ご説明する事業は以上でございしますが、
合わせて配布した「予算の概要」に、本日ご説明したものの以外
の主要な事業について掲載しておりますので、ぜひご参照いた
だければと思います。

以上で、令和6年度当初予算(案)についての説明を終えさ
せていただきます。